

## お知らせ

令和元年8月6日  
水産庁

### 平成30年度の食料需給表(水産物)の概要

本日、平成30年度の食料需給表が、大臣官房政策課食料安全保障室から公表されました(農林水産省ホームページ(URLは[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/011\\_2.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/011_2.html))に掲載)。

このうち、水産物の自給率は以下のとおりです。

#### 【重量ベースの自給率】

	平成28年度 (確定値)		平成29年度 (確定値)		平成30年度 (概算値)	増減
魚介類(食用)	56%	→	56%	→	59%	+3ポイント
魚介類(全体)	53%	→	52%	→	55%	+3ポイント
海藻類	69%	→	69%	→	68%	-1ポイント

#### 【水産物自給率(重量ベース)の増減要因】

##### 【魚介類(食用)】

- ・ 国内生産量は、カタクチイワシ等の漁獲量は減少したが、ホタテガイ、サンマ等が増加したため、11.2万トン増加(323.7万トン→334.9万トン)した。
- ・ 一方、国内消費仕向量は、輸入量の減少(323.3万トン→312.2万トン)及び輸出量の増加(63.4万トン→78.7万トン)により、前年度に比べ12.6万トン減少(581.8万トン→569.2万トン)したことから、自給率は増加した。

##### 【海藻類】

- ・ 国内生産量は、コンブ類等の生産量は増加したが、ノリ類等が減少したため、3千トン減少(9.6万トン→9.3万トン)した。
- ・ 国内消費仕向量も、前年度に比べ3千トン減少(14.0万トン→13.7万トン)したものの、国内生産量の減少率が大きかったことから、自給率は減少した。

<参考>

1. 自給率(重量ベース)の算出方法

国内生産量

国内消費仕向量 (= 国内生産量 + 輸入量 - 輸出量 ± 在庫増減)

2. 食用魚介類自給率(重量ベース)の要素ごとの変動要因

- ・国内生産量 前年比11.2万トン(3%)増加
  - 生産量が増加したもの  
ホタテガイ(11万トン増)、サンマ(5万トン増)、マイワシ(2万トン増)等
  - 生産量が減少したもの  
カタクチイワシ(4万トン減)、マアジ(3万トン減)等
- ・輸 入 量 前年比11.1万トン(3%)減少
  - 輸入量が減少したもの  
カツオ(2万トン減)、エビ(3万トン減)等
- ・輸 出 量 前年比15.3万トン(24%)増加
  - 輸出量が増加したもの  
ホタテガイ(5万トン増)、イワシ(4万トン増)等
- ・国内消費仕向量 前年比12.6万トン(2%)減少

3. 海藻類自給率(重量ベース)の要素ごとの変動要因

- ・国内生産量 前年比3千トン(3%)減少
  - 生産量が減少したもの  
ノリ類(4千トン減)等
  - 生産量が増加したもの  
コンブ類(2千トン増)等
- ・国内消費仕向量 前年比3千トン(2%)減少

4. 水産物の自給率(重量ベース)の推移 ( % )

	23年度	24	25	26	27	28	29	30(概算)
魚介類	52	52	55	55	55	53	52	55
うち食用	58	57	60	60	59	56	56	59
海藻類	62	68	69	67	70	69	69	68

資料:「食料需給表」

5. カロリーベース、生産額ベースの自給率

	平成28年度 (確定値)	平成29年度 (確定値)	平成30年度 (概算値)	増減
魚介類(食用)				
(カロリーベース)	59% →	58% →	60%	+2ポイント
(生産額ベース)	52% →	47% →	48%	+1ポイント

担当:水産庁企画課 動向分析班  
 沼田、黒田  
 代表 03-3502-8111(内線6578)  
 直通 03-6744-2344